萬治御點

中

皇大
W
911.157
Ma
3－2

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「万治御点」
10060621

60621

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「万治御点」
10060621

同二年八月十八日

山月入扉　五首和哥

弘

雪ふりてかきやせまし（てもてなし）

これの外山の月は新しくて

昌元

雪ふりてかきやせまし

ここのの匂ひ為やる

市

（一もて入も従新ろろ）

おもてれの内沒入ぬいくちしたかりきそ乃ぬ山ぬ陽の月

（内本）

伯二位

神宮皇學館文庫
昭和
60621

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「万治御点」
10060621

イ 二十五

あのうをそさいつとゝみしまする礼礼あるゝ山の
通茂　月

山ゝ弱のこすゑもゝゆうけりこぬ月ゝ出ゝ君のすゝ
晃

月照流水

こやきさいかゝとゝくゝりゝゝをゝぬ月ゝ礼ゝ文ぬゝ
伯之佐

布こゝれゝゝれゝゝあゝゝぬゝ月文て一ゝ白ゝ宮ゝ佐の川流
沸

照月池水

ゝつゝ音もくゝゝ外ゝ池の向ゝ
通茂

うゝゝやゝのゝのゝゝゝゝゝゝゝ礼乃流れゝく屋ゝ滝川の月
弘

月ゝをゝゝてゝゝゝゝゝくゝすむゝゝゝゝゝゝ流てくゝゝ
樵夫帰月

沸

ゝのゝれゝゝゝゝ我宮ゝゝゝ月ゝゝて新たに老ゝ
晃

詠うつる月の桂乃おりかへて嵐に山路をこへ行山人

香

老人の帰る山路の夕月夜杖たちとまるかな

通

久侍さの庵やくまし秋月や心すみ路にて住む山人

弘

岩ねこて夜いをと川山のつたや雲かゝりしたたる月の影

通

寄月待恋

松も一人ものみならでも右あらたなる月に待よかきよふ

涛

依るるこころすみ海の月にきて待夜むなしき枕

是

かけてたのむするかる松のこなさすら深く月を見る

香

いつもきく待といふへる宿の戸乃為にすゝかり月も憐

弘

と言ふを聞たまふね年月ふる人のとぶらひ

御

対月恋

月ゆえとはれぬ身をうれ身ぬれつゝ三月雨ふる

照子法皇

へゆきこゝろ思ひ出ぬ月ゆえたもつかぬ

弘

ふるのゝ月はしるいく秋の月もつゝもてうつし

通

かへりこむ世をうけ給ふ神の上ゆゝしく月ゆえ給ふこと

喬

たもつゆえ月ゆえなりひとゝなる法師とゝ

清製　四ツ　照子　一　日野大　伯三位　一通　歳一

同二年十月日

滝落葉

右衛門督和秀

日光

ちりかゝる木ゝの紅葉をゝりかく滝の白糸

資貞

たつ(清)たれぬるをこそ高てたつるのしるしなれ
ゆるをこそして激のひゝふゝ泊れて弘の清たれぬるを
うたてあつかいうはしとすたるるこ

清

水上ふあしに吹しをりしたちをふう時ふ山に激つを
うけ少あらやうこ家ちと弘

弘

ふうたあむ河しの中れとを切をやををみるるふの滝つ彩

ヨトこハ激ヨトハ淀こ　吉

を切入く風や(吹)あ(ら)しの(の)ちをやをすしを吉羽川とみち弘(せきハて)ゆ(ごと)を家ふ激つと

この山をふ木をあふうちて家流ハ滝乃ゆ上風吹し
下れ白こ白ハ木くやこ二白とくくーたるなかん

通

家家弘ゆを白ゆ滝の木ゆいをふ入ふ陰くちる本を氷

造作の入をうこ

閑庭家

日光

あをちゆるをうふ人ゆ秋の家やこ降りて弘ふ庭の秋家
をををうふ人ゆこ庭の家氷りて家ををるハ

清

しをころの家をふうへふ家をへくなのれをひーこ家生
の岩

浅ちふやそよくはぬ庭の何といふなひ久しくさとろふむまて
露哉
資

むまへなひたれこゝろゝも人めをもたしにはる紀庭の錦
露
咲まくし
弘

あさ妙夕露ふる露にはかれしなるこゝろぬ窓の露
直
拃

さひしさにうしや人めにたれすこも忘る紀庭のこ錦の紅葉
斎

三

三の径わこゝろはいつこ何さちゆら
こ錦の字用ひそくにも何とあるらむ名もたむ
うつくしきことそれはまことにろしく咲まこと
あさあさ露の名も勝しき
通

池塞草
日光

古寺や此池やこゝろをもみを心ひまえて露かれさむきさまれ
これも名れかくれて信し懐の花の寿まかくれ八重雲
資

池の面の波はこ清りく高おれ芳乃末まさにけふ風の
きさ
弘

すゞしく風もさはらん花それの芦のまに結ぶ浦なみて涼

涼の字それやうに出也　亘

なつけし水に置てる乱芦の根にふすそよぐ池の面

秋なし　喬

池水におれふす芦の末ふくとも風のふきてや水とつらん

立田川木葉のちれ末ふくとは風のふきたれ
まりちり似たる花風のふきてやの乃字とても
風のかきとるといふの[illegible]承　通

けしきハ枯ゝ川芦もおれふして浪ひろき池の秋

うへて涼しかるらむしくてよし　弘

稀逢恋　是

[illegible]時たるゝ神の[illegible]ひそやしもう[illegible]
われあるゝ[illegible]ひそめしとうち[illegible]といひ度ゝ名
三句よろし　是紙あるなるゝ

なくらへく[illegible]もも見ゆと[illegible]の玉の緒もなき[illegible]
稀なる心多しつまる[illegible]三句よろし　清

たも一人稀なる中ハつかハと[illegible]そや門まきの色
たも一人すりくねごころ人ハ何なるこの[illegible]さそて
云へきこゝ合点さはるそいなしとさく明のあるこ
あふうと[illegible]ハ行ことの[illegible]何とそ[illegible]へきとこ　弘

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「万治御点」
10060621

一 かこ猫ても うしや 三よ歌の面子衣 又吉の子女 毎の詠

これらく元まつしるる吾こ よるれハ

一 まれ去るこのちきつ子たも へうし ちはは去て猫のたへ

いまちハかつもれといふさうゐる趣 るりをも

吉

多

うしやいつ人いこんとて かハかりに又あふ子れ 三歌尽さつらん

名いたゆるゝにて心乱 夕ル心かさやうまてハ字承らし

通

一 まへきしれ まも何や うしたもひ川 ちとこかる中の何定ハ

雑志憲

日光

一 年頭ても 吉ゝ歌く流し 夕の日の客もれ名 新れ袖ハ かこうん

資

一 桜もへうも 桜あつちまし おもかにまハうゝ流つけても元

吉てもかりれう紀子もうたのたしう紀 やハ日する

つけくと何ときくらなるやうこえやハ吉てハ名へ注

桜何かうりしと日るよ

世めく身子気ふ形えるれ吉

涛

一 いつあれちつらし 歌哉りあ如くもかりなる紀衍れ身承ご海保らん

四　ハテしにも何ね哉りに　二 こうき　三

いかなれハ何と同し心そてハなまれをもけ桜承字ハ

二つをかねつよし

弘

一 たひハ 吉り掠あふか川うしこてもつきの立つへう涙れんあふこわ

そく　こぬくの吉に

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「万治御点」
10060621

一 いつにもえ

引 わすれんと思ふは君か中々に忘れぬ面影もし

直

香

一 しめゆく桜花ともいはしとすゝもあやにくみつ紀有と行る人の作

通

いつ此世のいつまて忘れん忘れぬハ紀あとかけのあつさし

満製 一そ　見 三そ　弘 三そ　資 二そ　通 一四そ　なら〻き千

直 二そ　鶯 二そ

同十一月晦

山を冬すとて

照

雲消ぬ山もかすとてつもり代の春の海待ちたもやこそらん

鳴うく鶯すれ

資

剥 谷の戸を鳴くも人の君か鳴うくひすのこゑもきこふ

さむく あさへふかき

言ふこ雪深くぬやうこはくる時分の句谷の戸のなり

ゑひハゑるうふと出るやうこ春の鳴る詠なるやうこ

月まても何かくし春かの道て行うさたいゑへうん

又鶯のおくるとハ連歌ニ十二句ゑやう五四ま八

さやうの事もちやうこ

このさ待の柳

満

きのふまでしかも稲葉いつしかなびくみだれたる風ぞ　ゆく
きのふまでしかも植稲の後なる花まで
花の色よりに　直

たとひちや茶のたまにつげてうつろふ山の色かはて
これも何かをとも趣不足に　んとに
ちらぬはむ花の　昭

ありもせぬ世のことはつゆもとはらにちりはむ花の色かな　かわら
春のなかめは　白

春わたる日数もありや暗花跡もまちれの春の名かは
三句行もべし
とゞめぬ色まれ　弘

日すれゆやうつろひ待る花はあれぞと語らねまれつらの数
題は何れと往は云たしぬやうに
さける卯の　涛

山の川の垣根にこれもはなし此花の盛りやさきまつかも
けしき月夜に　喬

それやぬけしき月夜に山川は瀬をなりても往らく
らし
往らく名瀬やさらくといへるは流れのあるに瀬やはさらく
流き淵にこそといへてあるはさらく流れの音轉へこえ
又往らくうし結句かやう此等力なりしとて中院
お内府などは殊られしく又山川の瀬とは雑女
先猶には庭わならずしもさへこえ
何へ流し　直

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「万治御点」
10060621

秋しも所なれば月さへ殊さらうつろひく所へ清き秋の夕
結句反歌なるべし初しもの霜をつきりとそへられん　風

弘

夫秋や所へ体さまかはる事あるもまれなるかはりかなりて
色と出るに
所うつり変る事

照

ふるの乃名ばかりなる所へうつり変る事とる月の
秋しるしなる引歌をそなるもふる
さらに花もれ

向

さらさらとめれ月をまつの秋ちかくなれば花声しこそん
三句体をつゝ
秋の月を

渉

のこれても月の秋をさいかりはさらかくれもたもひりそん

月をうゑせの

面

雪くふ物にもあ神の涙ふ月はうき世のひとあり
さとをさうかたらん

和歌をいつもて

渉

所うつれば月をいつけく山はさと入もちし浮雲ふ
これもをさうし

通

秋乃月こそ
久くう記ゆれて神の家も浮ふとは秋ものこと
ふ

直

くれるわふ惜むゆれ[illegible]
[illegible]
雪をたもとふ　通

松ちとる雪と秋とふ我庵く　ぬらす花の園の衣
　　そのさかりに　資

たち里もそのさかりに世中は　や年くれ春は[illegible]
[illegible]　斎

きう野わこく卯月[illegible]
何ゝ　[illegible]の　資

一さ[illegible]の行[illegible]に[illegible]月日[illegible]
　いる[illegible]を
といくふ[illegible]
　いひ[illegible]て
る[illegible]
　[illegible]
一[illegible]
　谷の[illegible]　照

いまの世のをうまるほうしむちゐあいひろ谷の住
をうまるまゝハをとゝ谷の住ゐまる海ハ
をうまてハかいひ多ゐやうこ

同　いまの世　歌

ちゝこゝんのをとゝハふゐゐれく芦ゐ山ゐ神やこむ
うさゐろ山ゐ

ゐうさとにゐゐさふかうく袈裟かさゐろ山いいく〳〵ゐろ
をゐ

をうくく世をハ

はくくとをうゐろ世をハをゐゐゐやゐろ宮ゐ風の
はゐ類一字れてゐハをとゐ風ゐいひかゐゐろ

日野新右衛

八百万代を

ゐろ山神ゐ神ゐ神ゐもくふ八百万代をさて祈ゐん
をい神の数をうゐりこゐやう紀人やつゐをちいや
ゐ神ゐ神ゐ神ゐひとてゐ祈い神ゐ祈い祈こ

万治二年十二月廿二日

雪廻日次　御

主人をたちひさえうし後もあ残つも海いく見庵の白雲

通

来ふことふきの君乃庵のたちかけとほむいく見雲ぞ明かの

照

舟れ日もつと浄こ雲れ空る星ハう清れ明に聞ゆる

沙門

一　さえぬそめちりこゝをあれる庵の雲ぞ山も日数をやすに
（朱）ちろ玉の　ほくりの　やえとて　を雲に
主帰て
五文字いつて見をやとふ人ハめけのあをもそかこやると
いふ所をよくこ善みれバ清の句法不足也さやうなる
事ハあらうちわろと云心こ意ハことをやうちつつね
猪瓊ハ雲の名こ云趣ハちろ玉の丸

直

一　つもる梅こ雲も日数を流ちさりられね色と山と霜さく
（朱）清色やね
五文字合点出かるを

海邊松雲

直

一　ひさこれハ雲こゝろ清らう紀以乃君ハことり此過ともにこて

直

[illegible]

[illegible]

清

雪の中に松の[illegible]の上ふかもさまざまあるべしつゝ紅
[illegible]
雪の[illegible]に松の[illegible]
浦の[illegible]

通

浦こゆくたもとにつゝれる松原をへあら雪の一[illegible]

雪中嘉人　同

くゝるをのいそのうゑさいやゝ出るこの雪の中にも

清

しをゝにいとゝ雪ふる時雨ふるもかゝるとしつゝ

清

う紀人いつみ詠人伴雪ふれるくるしたもみぢ

雪ぬ間と花ぞ咲ける春ぬ来ぬ人と共に

照

ことしはこんとも沸芽の庭の雪と〳〵に人のいらにしく

雪中眺望　　御

降ぬもの雪ぬ雪ぬ出く山のその上をとりて春ぬ所のうま

写絵し出ぬ人物の郭公乳雪ぬ見ぬ〳〵春の山桜

直

ちさこ山ぬ〳〵ぬ雪ぬ雪ぬ山ぬ乳山のそて鶯と春の白雪

通　　資

さやけ〳〵ぬ〳〵ぬ雪ぬ雪ぬ山ぬ乳ぬ郭公乳ぬ雪ぬ山

祈ぬ〳〵ぬ〳〵ぬ〳〵ぬ

照

えら〳〵ぬ世ぬ世ぬ雪ぬ郭公乳ぬ山〳〵ぬ山の奥ぬ弥生

眺望の字ぬ〳〵ぬ〳〵ぬ〳〵ぬ〳〵ぬ〳〵ぬ〳〵ぬ

雪夕聞鐘

照

清の言ハう法を御て拍拍もいろ〻の言のぬるそら

資

清の言ハ海もこふられて初瀬山拍京くもゝね峯の白雪

清

拍ふく風も言ふうつもれく初ふきもぬ入れの清

左

くもりて海拍りやいつこをつを山雪ふりかく入れの清

通

埋れぬ加移の初ふきとうつもれぬ雪のそこ野ふ初瀬

清製 二ゝ 照 二ゝ 日枝新古 四ゝ 通茂 二ゝ の山

雅直 三ゝ

万治三年三月

竹 号

照

れ弁ゝ初ふ入ふ山やこもー内も東海かく弥ふ宮の号

竹ふ弁ゝ初ふ入ふ石なふし

清

ふ内紀ふ初ふ入ふ弁に入ふ入ふく内号初声

ふくもふけれも岩れふ二文ふふれも

こゝろするの

通

信ふる紀をあれこやとやいうくひすもやとりすん

資

うたりくる声れを書にゆるれる竹のうてなそその

白

雪ふる

法室さゝきされ竹の影ゆうつるふ方ふうたる号

弘

そゝてもゆるの弱ハうつていうらし

うくひすもいく世のそのやとりゆゑ所ふる竹の陰しなれ

雅なれも忘れといはされを

清

寄雲花

石ふるのこいを入れふるへるさいさそもれそのふ

いさそる雲れ山ふるこ別ゆををふし

やうれて ふるしくさらこ

資

山のこの竹これ雲もこのひい花ふれてやらもに白へ

紙白いろろさこ雲ごろりくやに一向いれれアーき

ていあけれもすうめ雲もきつし

私 敵意ハゆるきしかゝにされを

ちそしまくにはるくもらな山櫻をこそその立やまふも
こもいやたり

為

ふかを世れう紀こと万ふ
はいやこ寺をそ
もいやし

照

吉野山紀ふ柳り万ふ
ねるき万こ

立

峯ゝ立ま万ふ紀ふ
ふおろうなるふ

櫻ふ伊ま
ん

しけつ鈴ふ
通茂家ゝ云八
（ふ元印新造へも
彩造と云ハけこ

山をに八立花の多ふ
ふ立花ハ新造の河ふ
立入ふ一伊いれ
ふ河をこ

中院中納言

桜方

みふ万ふ桜もつふれすもふ紀のをこ者の百也
もれく

白

春ゝ紀ふ八紀ふ者れく咲ふの伊ふ寺ふく桜乃ふ
の勢

清

時しなれば松の梢もうれくもまさりて雪ふりつもる山陰
とも雖とかすみわたるこしの
照

あまのすむかたもなかうすみなれてくれはたなびく庭の松風
少みくらえ
弘

四 春こそ
五 峯の花の匂ふ山ふかうもれくれはいつもたれ
三 見ぬ人にしれぬ
見ぬもこゝろの松かえ
清貞

庭の松も梢むもれくれはいとすゝしくすみこしくれはすくれ
梢むもれくれはすみこしくれはすくれ
えてくすくるるまつといふるまをうたふ

峯のうゝ雪のしたなひふ風にたゝく中くに松の声をすゝ
仕
清貞

ちりてこゝろとなれ松の色も千代のみとり深ふ行くすえをつれる
弘

雪のやこゝ一人いらぬなるこゝ俗世をはなれぬ庵をこゝろ文
独ハ雪ふりはやうふ少くに文り友の訪ふり
通

たのもしきいつれ深山乃なかつりあ文こゝろ人
ゆゝ

清

と青さへ文る・うゐ玉へ人さのもぬ和ぬ・あう紀ぬ和ぬ
うゐいつれ玉てもしら紀ぬ和ぬ白ぬ
上りけこふ合やうこ

名古

彩やこ一ハ玉ものるさ岡さ一ハはゝ玉へ人ゆえとて
弓寄ゆるやうこ

吉

文ゆもてもやかこと一ものもふおとろうさて一ハ岡やこ
ふけるさうこ

岳

うゆ紀と紀ぬ重て一されいまこと人といふ花ものや
ハ人をいうふ玉のものとふるとう紀さう階ゆこ

羇中衣

香

ものうゆ紀の寄ものいうゆ紀たひ一ものこ袖も紀て玉ほう紀
玉ほう紀ゆ結ゆ安ふて

吉

嵐さへ神ゆ玉ほれぬ旅衣ゆ一かゆ一くもいくうたとい
嵐さへ一ほ玉ぬ行ゆそや嵐ゆ一ほう行ゆ

清

紀きつるくゆふ玉ものうこ衣紀ゆ玉こつるゆ山そうゆ
こ紀へるうゆ一うゆ山ふ紀ゆて一こといへと紀(紀こ)

日野新右衛門

袖もとや紀ゆとこ玉ものたひ紀ゆすう山ゆ嵐のゆへす衣い

三 左右手 四

寄色こころも新水色とる夏袴の上に牡山の卯花襲にはををつ

〜〜〜〜きこ

弘

家陰や彩山をうしろにおくをく雨ふるさとの衣い

をくも雨ぬるいをくうにはらといふこの袖かきしこら

ここさてやうのうすいはの雨ふてとゝゝをうれるこころ

うこうゝゝなるこあと卯さきふるうるもはこころ

苗へ色こ家はたこのうちれるゝやかうう外くをく

こふはゝ旅の衣ないへそうくゝ雪ふるこ

通

四月卯月 牡山の家ふるうる風うくたるの衣い

何はなのうるゝ外ゝ旅乃衣い紙物一すふもうるさうこ

同四月廿八日

柳 亭

てぬくこうをうゝむと家のまに礼を風の吉柳の糸

吉

ふく風ふこ毎れとをて風吉柳の糸うゝふふてうゝ

胡雪

吹とるゝ風ふちうくをく家れ玉の徒ゆうくを柳の糸

弘

手家の玉しころされぬ守とかて古風よつゞ古柳の号

通

峙しも外見えぬ古風に託れくしろき古柳の号

直

風ふる柳の枝もるひくヲて きかあまる家に独り託して

初郭公

通

いつも里なれ初く郭公声の朶もあらぬ初声聞えん

深草

郭公声いつくみもきてつといふらぬ初音も覚く嬉しき

聞すてゝ出くも打おし初声も会も待ん山本にこそ

弘

耳そ寄たし峙多き声と待人にまちきてやもられぞ一声の

直

今聴さつる一声いれ花は耳に来一聲にまされぬ初声好らし

直

聞そうられ聴く出く来を多とれなやうい宗外 時鳥のひき

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「万治御点」
10060621

社月

秋ちをはさいすハ月やすこをてん生田の森のこゝろ
弘

男鹿なく秋をとひさてゝ長もすゝ月と生田もてゝ
忠

とゝてゝん月やいろふとゝ生の森生田社森立すゝ
資

秋ハ生田社森社神かをまゝつゝ社月もはのゝく
中納言通茂

ゝのゝすゝゝ月をうとゝん秋風の生田社森ハ雁すゝ
喬

問ゝやゝ生田の森社長雲まの月ハこゝすむゝ秋風の
弘

霜雪秋をゝ花をゝ〳〵く一をの森のゝ秋も弱ゝ
資

神無月ふかう雪の一さかり秋をもとゝめさをの内に
百重にかれゆく木ゝも白雪のうゑにはひくれはさらぬ
くゝへてもえとめきの花秋の雪移ふゝ花雪の色ふ
みも行移ふゝ花てあれは雪をいとはてやえん

中院中納言

下葉ゆゑ〳〵折ゆく霜も知るく陸ゝをもたのる楢

伯三位

久方

さのゝいと所ふかしさのゝうゝをもゝ中ゝ年月

通

つれなくも居をゝ所ふ情て京命さへとゝくやーさ

資

こゝろ出く後といくとせ多摩川弦ゆ水不神ゆゝ

弘

いたきてゝ身さへつれなく色を線書ゝ花教ゝ

世ゝ花ゝ所ふ月只ゝ秋のゝさゝ花の表ゝつゝく行つ

吉

玉ぬ結ふ袖かゝらんこゝろのおもひ知れ迄て逢ふ月かな

花如雪

きやえんさても植ゑ置く花はいつまて雪と見ゆる

直

消やすき雪まてみえて見るもし散つむ花のその木の下

伯三位

〳あらつむも雪まてみへて消えて春の日数に見ゆる花

資

風ならて見つろ散敷花の雪やまた木陰にそつもるらし

弘

〳いとひこし風もうらみ木の下に雪の香にしつもる雪

ぬれつろむら花の白雪消やらて同木陰にあゆる

夕月夜

嬉しさ川高瀬さす舟夕月夜に起きて見もやまれぬ

資

〳夕月夜のたゝ見えし乃をやことも月かれそ落る水の香

伯

川の瀬岩こえて来もうらぬにたもかゝりする五月の空　通

五月雨ふれは日数ふいゝるらんはふまゝ浅池の汀も　直

滝津瀬もとこうさ跡もく吉羽川おとを定しぬ五月雨比　弘

ぬいくの浅き瀬あらぬ山川も岩根さハく五月雨比　頂月

和星浦ほしあらし浜なかれんも松ゝまつ須磨すゝ月　紀
（海士ハさしもそれやいきこそや）
此歌ハ都にふんなれハおしとすむつかし落ハ松浦と
此体ハ浦をも汐と心得し此字まこと　通

くもりなき月の影をも志浄風の清き浅波ふえるらんと　弘

沖津風暮けくもち雲晴くくもらぬ浦まてする　紀月

此の山海ゝ風ふ雲晴くそてての波乃流の上比月　頂

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「万治御点」
10060621

雅也

○さゝ原とたゝる波はすゑ〳〵は　青ハたゝ
　一文字はくるむまさるべし　資

月見のうちは　にたゝる
　ときにこそ見まほしけれ　北月記

炭竈

煙立て山ゝ山ゝ山ゝ山ゝ　弘

○ふるさとの家根の雪はとけぬれど　海

炭竈

かゝれば　志一

○ふるさとの家根の雪はとけぬれど　海

炭竈

　　通

○ふるさとの家根の雪はとけぬれど　資

炭竈

　　海

霞

[illegible]川の[illegible]閑地を我中れをくひ[illegible]

[illegible]　弘

○[illegible]人いつくれ[illegible]

[illegible]　弘

○[illegible]

[illegible]　也

通

○うたつ[illegible]

日野新[illegible]

松山の[illegible]

松山れをのれ[illegible]

古寺[illegible]

日野新[illegible]

○[illegible]

通

[illegible]

○何とかくいはすやうこそ世山の行末のかなしけれ

春

金屋さへ家しれとやまつせ山又さら祈れおころの庭

冬

ふもと又訪れき彼の所アヽ山永初せれうの書さり

○時こそふ赤者もかくやさつを山ふのもと又入おの陰

御

日野大納言　二ヶ
藤新大納言　一ヶ
伯　二位　一ヶ
雅直朝臣　二ヶ
通　茂　一ヶ

文月十日

梅風　　弘

枝ふるるさとにすれく庭の面いつれを梅と白ふる風

○さろひきてこてふ似う鼓ぬるうや梅い風の梅う　吉

通

こへとたち京ハとも老くてや人ハさそふ梅のて風

資

玉風ハ吹ともふるる梅を梨花ほくゆうく白梅う

○ふかひさへ枝ふあちう小夜風ふえぬを行う金石の梅て　吉

香

○ちうへくもつるる雲ハ梅ていちふふ風雷うてやうん

宮

○月ふるる夜まの月うる乃ふうりふもふむてやえ宮の　灯

吉

くとりあう　なうう分ふたもへとや宮をくいさめう月ふもれ屋　外

・花ちるさとをきるたびごとにこずえをはらすこずえなくて文行宮女灯

弘

いろつくしうちぬる宮も金屋もあるべくあるほどもあるべき

通

五宮の

○花ぢるさとをはるの日へぬ宮もはるにまつ所をはるはるにまつ所をはるはるにまつ所をはる

やうりゝ袖高尺ばかりなれの色ばかりの尾ゑい

弘

うゝ手ゝ

志ほゝをゝ声ばかりくゝうゝ手ゝこと浦ゝ友ゝ

日野新大納言

友ちゝいゝふ塩干ばかりゝ和ゝ浦まに

弘

弘

波ゝ塩干しむれく一とゝりくもゝさゝれゝ手ゝ立

白河三位

次ゝの浦や流のゝくゝれ友ちゝりたれゝ又ゝゝゝ表ゝゝ

通

○実人の袖ばかりゝをゝ人ゝ手ゝ浦ゝ表の庵ゝゝ波

左

寄ゝ流ゝ風ゝ立ゝ村ちゝりちゝゝゝ井ゝゝゝゝゝ

弘

○ゝゝ名ゝ世ゝ名ゝゝもれくゝゝ松ゝ人ゝゝゝれぬ袖の浦ゝ

たゝへんそれさうをふいうふもとれ　弘

ゆやみくふつゝめいそゝとそ　資

うしやいつをふせんつゝれるもらはふゆるこゝはれ　忠

あちらみくゝ立名たもいはいつをそゝ世ふをゝ　喬

○世ふかくゝ誰とゝしをん家もゝ全法もかゝゝ尼津ゝゝゝ　通

法

日野大納言　二ゝ

四條大納言　一ゝ

中院中納言　二ゝ

白河三位

雅忠

郭公遍

月野彩古納言

をのの

ハ

ぬくや

もみぢ

おもて

ハと形ちハ

郭公ハ野ゝ山ゝ中ゝ五月の宿ことふ彩ぬあやめ草ぬくやもみぢ

移ろふてとハいとかゝ咲くとハいひもすへきら

照

たちつ屋を里を所おもふ所ゝ行とまれぬ郭公

ほとゝきすいとうこゑ里をのゝ五月ハ声も行もて

いとうこゑ里なの河いひあ一たち行とそなつかしき

夏ゝ所ゝてゝ咲ハふかつ一さ咲てハふるゝこ

通

はなゝ咲ハゝゝなれく行とゝ里ゝもれぬけゝ咲

郭公こゑとゝのとゝ声ゝ聞ぬとしゝ咲ゝさゝも

里なれくかゝ咲ハ月とゝ咲ハ声ゝ聞ゝ

後れゝ今ゝ里ゝ咲ゝ里ゝ咲ゝ里ゝ咲ゝ

夏ゝ

人ゝて庵ゝ咲ゝ成ゝ夏ゝ咲ゝ

もゝゝ

ゝ

ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法被して河内国なる桂川の辺にあそびに行まかりける
行むかひとられしかば
仍て法被して行かれしこと
とつらへ行ちたりこと

恋之法文

法被川をゆく波まの清きさに立てやすらふ波の秋の夕

年波のゆくへこえゆく法被川あすの月日のつもる五月雨
つもる五流を尋ねなるこそ或いは波とえ行くくらし
さらう迷懐なるこの心東へ行れも ちとハ安えん

吉野川ゆくもの年ゆくみるなる麻の葉ふ
麻の比ふ葉ふけ、そへく法被川夜とらるる法の秋風

たもふるそ〳〵てふうそにふるく清き麻のたねさ

つん意

伯三位

ゆりそやふるさとりを望りて身を浦法ふ神やたちん

也

古ほうそやうしや行をとの法まる神もかつくみるは八うふ

恋

一えてこしいてそたんえん打の家きれわその翔

法中納言

八ふも又たもひのこころをたのめ申て詠ふて

たそ[illegible]つ[illegible]ひそふ[illegible]

[illegible]

[illegible]

いつ[illegible]

[illegible]

弘

むすまても神ぬ[illegible]を中くふる[illegible]

[illegible]

保中納言

被[illegible]

名[illegible]人の名の[illegible]

[illegible]

[illegible]

賞

たもひ出とい[illegible]ゝ情をまれなる人のわかれといふなりけり

弘

[illegible]月日おもひ[illegible]れのこる人ふかきのゝ色とも
又文字つゝみふかいなみといへい変色されもらさけて
ところ〳〵又何ついふふもあくまへ〳〵さのこやいう弘
みふへたら今下ろへうへきこれやうにうるけ毎もみこ

[illegible]

[illegible]の江ふ雁をうへて人いつこうん

[illegible]

清

[illegible]院[illegible]　二ゝ
日[illegible]新大納[illegible]　二ゝ
[illegible]中納[illegible]　二ゝ
伯　三位　二ゝ
雅[illegible]朝臣　二ゝ
弘資　一ゝ

七月廿三日

祈恋　通

うるはしき中ふる雨に袖ぬれて
うしとこゝに行かてゝえうきをぬる神乃はしに人のあへ

日野大納言

きのむとそくみふるひるの紀ゆきをぬる神なきやと

資

つれなさは恋ちかくゝ祈んうき人の神もきそいろむこもや

ちん

祈うなさ分はをいたもいて
祈うなさ分をいたもいて
恋ちかくゝうきをぬる
恋ちかくゝ
恋ちかくゝ
恋ちかくゝ

今ちとせ又初ねこうこ爰も花をかあわれなれを

通

伊勢ぶ[illegible]ぶ[illegible]立ち[illegible]ぶくまこと初の春はなこち[illegible]こ

神の中ふ[illegible]玉しわ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]人の面[illegible]

須

[illegible]

喬

爰うつ花ひとつわと[illegible]の[illegible]ひなくさむ[illegible]の一[illegible]

弘

[illegible]て[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]神[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]

須

恒亮

[illegible]やなぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]神の[illegible]

原中納言

おくらゐ人ふ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ

[illegible]

かれてそこにいらつる人々も[illegible]

[illegible]

[illegible]

照一二二　五七二
月大一五二　三七　十九
烏二二二五　七七　十八
通二二二二　十二　十七
白二二二一　八七　十七
花二二二二　九七　十二

清十二　清負　白一五　負　白十六　負
烏五　負　白八　負　花十二　負

寛文元年六月廿日
夜帰雁　須
月と花さそなる名残もしらぬ顔なる雁の
照
白雲のなかりしもの空の月もかすみて
花ちれとはるの山もうすくなる
弘
翅なる我うすめら秋まの月行くえはあやなきもの

その夜八月ふかくなる頃の月をあやなく庭にて

通

ふる郷の名残いとなつかしれぬ井戸の金屋の所も

鶯麥露

百舌鳥なくことのつとりかへく時雨こ

資豪

弱をく初雁の鈴きの庭にをかうあり雲もて清き

照

庭さらく清き雲の庭にふるはちつも御代

伯二位

ひのくらんこれもうすくもこそ(あ)ある大和なる

通

雲をこそ風もいとはあれ世尾の庭に

ちつとなりをとハうひのくらんにさらにてそこる

香

山ぬちくに松さひ雲の高ひなれく雲にも月

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「万治御点」
10060621

山ぢく世外のれての秋もなほうしとや鹿の鳴れの声

中院中納言

山深くうき世の外の秋も程なかなかなくやうらん

同

あかさてこれを深き秋いかにし鹿山もれぬ哀れ

日野前大納言

おれさて哀やこそ思し世のそのの深山もれ鹿の鳴く（さやく）（に）（なく）

大山寺もれぬ秋をうしとつれなき書山鹿

海道雪

立ちまさりこそ流れ絶えし後ふる雪

清基卿

信濃の国の松とれすの降雪ふるさちかくまさる清水山（時て）（う）

同

清水ふる風吹雪信の上のあとをとふつもる雪

通

雪もなく降つむ雪のうら信の名もいつれを

みくまのゝ浦のさゝなみ　弘

白波のよりつむ雪もうらつたの　知

袋草紙

ゆふしぬ雨とみるなんとゝ　山

作りなれ　弘

ゆふしぬ雨とみるなんとゝ　山

作りなれ　弘

なる枝さゝふい花なくさゝ　伯二位

と考えへ分けのくまゝ　知

とゝ考えへ分けのくまゝ　知

とゝ考えへ分けのくまゝ　知

とゝ

[illegible]
中院中納言
[illegible]
伯之位
[illegible]

一ニ
一ニ
二ニ
二ニ

法隆寺　法制裏
[illegible]
保山麻

さひしさも　これなる秋の　形見とて　保山麻の山
鳥
小麻なく　なれる声　山ものこれぬ　秋と　[illegible]

已上法隆寺制

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「万治御点」
10060621

七月晦日

草花

袖ふれてかへらぬ人の秋ぞ恋しき

道員

明日とてはかなき草の露のいろ

恋

秋ふかき手枕なれぬ夢うちとけぬ

乃家

弘

夏草も神ぞ祭の秋ぞ恋

斎

秋の風夕暮ぞ秋萩ぞ恋

ちらさじと

花の神も春ぞ

斎

関恋

しきりなれ秋ぞ恋

恋

秋深き夢ぞ

陸奥の国に霧とおしかくして秋いそくくるはみ
ゆへ五月雨に出もかすみ色なれぬ夜の月の影そ
ゆく　弘

明るやうに見しの雲のうすくなれとうらに秋
はまた　通

吹つゝに秋くる風や初雁の玉ぬきうつむ
山月　資

玉藻ある海の水底に山はなれていつる月哉
月はいそこの松ぬの下露に新そうつる
色そへく月のつゝもはなれぬこの山松にはやきこそ
月と指をさす山松ぬこゝあしの葉そそやけき
豊受宮　弘

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「万治御点」
10060621

中宮すむらさき山にてあきの夜月

[illegible]

[illegible]山にて夜上の月をながめて秋風

[illegible]

世をさりぬれば[illegible]

[illegible]

世にふるあやたちをとこ神の御子

[illegible]

うしやかくもたに出るゆ行末のうしとみるとうれしくそ思ふ

通

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

日野大納言

[illegible]

[illegible]

通

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八月廿五日

曙落花　四

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

通

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三輪の山さいく市女笠ぬぎかけたる木の下陰
市女笠ぬぎかけたる木の下陰
杉の目はいと優にやさし

中院大納言

さとたゆの神寺はるん木をきりし女うゑ新人とかゝ下ゑ源ふ
そゝろめかれそゝるへし結句のおとゝ合
ゑゝとゝ

三

市人のなかゝうへ浮神寺ぬん
はゝと云河いとそ市人はまそゝるへし
東屋ふかはこれとゝ彩メていはとゝ記さとゝ
はつゝてうちむれくなとゝとゝ永徹を名
のゝこはゝもはゝ名なゝ名をとゝつゝ

四

うゝ名ふそとはゝと我名を名はゝしはやうなゝ名はゝはいて
仏はれく生人やさく
はゝ立ゝ
中ふも
はゝのはれふゝ名はゝ

五

おのゝゝ名をのゝ毎ゝ市人ふの市ゝ神ゝ寺はゝ新
現はゝえく風はすくゝゝ

弘

はゝて市ゝ記れ記を記ゝ雲のそゝ新山ふゝを記
はゝのゝゝはゝはゝ詩の河なれをゝの林とはゝ
はゝ記ゝゝ

浦秋夕

うきにこ秋をおかはきゝゝゝ形へて世に
秋とはへふはれ秋海ふかはぬを又はいふす海の浦人
秋
下上夕ちゝ女おを遠し上夕ちゝにまけたゝし

このそもめたへるこくあ

浦人は岩に佳てやいてをんの一も沒して秋のタこれ

中院大納言

下句のりそうこ

岩に佳てもいてをんあてハ沒すしらなみとしてうつ

にハ岩とねこあらあすてとしてさうもやしはなさう

はをはるこへとひぬとしてをんあつもをもも秋の夕雲

うう秋のタあるこめ

志賀の浦人

清原前内摩北岩の俗語こ

伯二位

新し乳人の為忠は広の浦やう乳和の秋のタこれ

ちかいつ　ちのは色ちわん

二句いつ

弘

うう人の居ろをころとしろ丑なるこ秋のタこれ

ちといっちりしろ

忠

とをくしむしふいろ和広の浦北乳ちかう秋のタ

あつれしっまいたりあこ

羅中宮

ここち

五

右ひとりてあれ北ひ

四

三

日野大納言

いわしうに

二

ちしとと

秋の夕ハ秋の夕ハ秋と云ても沒ちつ

はるこ日乳ちつ日乳ちくいふこ

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「万治御点」
10060621

弘法

[illegible]

西行院文

[illegible]

香

[illegible]

中院内大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

通

[illegible]

清

[illegible]　三ッそ
日花[illegible]　一そ
中[illegible]　四そ
伯[illegible]　三そ
弘　須　二そ
　　二そ

閏八月廿五日

山家梅花

山ふかみ　たにのうぐいす　たにのうぐいす
[illegible]　梅の花　[illegible]
人[illegible]　[illegible]
梅のこゝろやとゝまる　[illegible]

日花新[illegible]

[illegible]　梅の花　[illegible]

返

[illegible]　梅ちく山の[illegible]

資

うゑとうゑ一もと竹の山うをゆうかたとゝの白ふ松ゝ書
一村竹いつゝみふきこてゝ　　ちこれし

伯三位

四　山ゐ望し　にくこし　梢　まつ　ゝ　ほり　一　山ゐの　ハ　頂　ゝ　ゝ　ゝ　に　ゝ　ゝ　松ゝえ
かてゝ　ゝ　ゝ　

月法秋思

いつもせんなくさめうまくむふ夜の月ーもそふ秋の色へを

香

ちぬさに家さく神ふやとりきてかさ雲ー秋の夜の月

源

ミちはうはそふ秋の七ひ月やそふん

タくれのうさふふれ神ふ行相ふ高尾ふ月新

通

夜まち月ふ秋

源

一夜山の秋の

二秋の

三くさもいひ

四秋の

五たつ夜ふ

六ものみの

七

秋の夜月ふ大ふ秋ふひとこ秋の秋を

源

一夜山の秋の夕ふふ秋ふ

二秋の夕ふふ秋ふ

三くさもいひ

四秋の

五たつ夜ふ

六ものみの

七

秋の夜月ふ大ふ秋ふひとこ秋の秋を

源

山の上ふ秋の夕ふふ秋ふ

ものふ

秋

山の上ふ秋の夕ふふ秋ふ

ものふ

秋

秋の夜月ふ大ふ秋ふひとこ秋の秋を

源

一夜山の秋の夕ふふ秋ふ

二秋の夕ふふ秋ふ

三くさもいひ

四秋の

五たつ夜ふ

六ものみの

七

秋の夜月ふ大ふ秋ふひとこ秋の秋を

源

一枝いかなる時をうきてそれの梢る秋の名をそ残れる　通

下葉をさそれるそ秋の色はのこる梢と山風そぬく　弘

夕陽映海　源重成

淡路島山と夕日はそれるあふ一すちもしほの上の邦

西の海や淡路入り日はなをうきてしく海ふ抽なる淡路島山　春岡

海辺秋月　通

月の海や淡路の島の夕月夜秋そ高けれ　日野家古河

うらこの海や淡路の島はなれ松のもとの梅の色にうつる名残　通

秋の月はなをそ見るこれいたの海や仲乃小海に雲とうつらく

海製　源大納言

宗　一

野方納
伯三位
資茂
清水伯三位

神宮皇學館大學
32240
昭20. 9. 15
圖書

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「万治御点」
10060621

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「万治御点」
10060621